

令和4年度 最終評価報告書

| 重点目標 | 具体的取組 | 担当 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題） | |
|---|-------|---|--------------|---|--|------------|--|
| <p>(1) 3年間を見通した指導計画のもと、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践、家庭学習の充実を通して、生徒個々に応じた進路実現をめざす。また、GIGAスクール構想の推進を図り、生徒一人一台端末の効果的な活用をめざす。</p> | ① | 生徒による授業評価や教職員相互の授業参観をもとにして、学力向上につなげる授業を充実させる。 | 教務課 | 「満足度指標」 不断の授業改善により、生徒の学力を高め、生徒自身が「学力がついてきている」と実感できる割合を増やす。 | 生徒アンケートの「私は授業を通じて学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）がついてきている」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 92.6% A | <ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は92.6%であった。 ・授業において1人1台端末の活用が進むとともに、思考力等を高める授業改善の努力が一定の成果を上げている。今後も継続していく。 |
| | ② | 「予習→授業→復習」の学習サイクルの定着を通して、家庭学習の習慣化を図る。 | 教務課 各学年 | 「成果指標」 家庭学習が習慣化し、予習・復習にしっかりと取り組んでいる生徒の割合を増やす。 | 生徒アンケートの「私は予習や復習をして授業に臨んでいる（国数英3教科）」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 65.4% D | <ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は65.4%であった。 ・教科の特性を踏まえたうえで、適切な予習と復習に積極的に取り組むよう指導していく。 |
| | ③ | 授業の中で生徒が思考する時間を確保し、1人1台端末を活用して、生徒個々の学びの質を高め、資質・能力の育成を図る。 | 教務課 | 「努力指標」 1人1台端末を積極的・効果的に活用する教員が増加する。 | 生徒アンケートの「1人1台端末を積極的・効果的に活用している」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満 | 66.3% B | <ul style="list-style-type: none"> ・7月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は66.3%であった。 ・授業に1人1台端末を活用する場面が大幅に増えている。今後も、学習意欲の喚起や学力向上の手立てとして積極的に活用していく。 |
| | ④ | 国公立大学一般入試に対応できる記述学力の向上を図り、難関大学や金沢大学および国公立大学への進路実現率を高める。 | 進路指導課 3学年 | 「成果指標」 難関大学、金沢大学及び国公立大学の現役合格者数が増加する。 | 国公立大学の現役合格者数または難関大・金大の現役合格者数が A：100人以上 A：20人以上 B：90人以上 B：15人以上 C：80人以上 C：10人以上 D：80人未満 D：10人未満 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・現役生の国公立大学の合格者数は87名、うち難関大学は2名、金沢大学に7名が合格した。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | 授業中のICT端末の活用は学力向上に効果的なのかしっかりと検証し、真に学力向上につながるようにすることが重要である。また、板書のメリットも再認識し、生徒はICTツールで資料を見るだけでなく、書く活動も大切にしてほしい。 | | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 | | 授業の企画・設計で、ICT端末を活用する場面、教員の説明を聞く場面、書く活動をする場面をバランスよく取り入れるようにしていきたい。 | | | | | |

令和4年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校

(No.2)

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 分析（成果と課題） |
|--|--|-----|---|--|------------|--|
| (2) 学業と部活動の両立をめざすとともに、急速に変化する社会に対応し、挑戦する勇気を持った、たくましく、しなやかな生徒の育成に努める。 | ① 文武両道を基本に、各々が年度当初に立てた目標を達成するよう努力する。 | 生徒課 | 「努力指標」 各々が効率的かつ効果的な練習を工夫し、成果をあげることができる。 | 教員アンケートの「年度当初に立てた目標が達成できた」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた部顧問の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 | 70.0% B | ・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した教員は前期と同じく70.0%であった。 ・生徒が充実感を得られるために、勝利や成功体験だけではなく、やりがいを得られるような活動を目指すと同時に運営の効率化を図るために工夫と改善を続ける。 |
| | ② 挑戦する勇気を持って生徒が自主的に取り組むことができるよう、部活動と学校行事において生徒主体の運営を進めていく。 | 生徒課 | 「満足度指標」 本校の一員として、部活動や学校行事に積極的に取り組む生徒の割合を増やす。 | 生徒アンケートの「部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 90.0% A | ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は90.0%であった。 ・生徒が学校行事や部活動で目標を設定する力を育成し、主体的に取り組む活動を増やすよう改善を進めているところであり、今後も一層の改善を図る。 |
| | ③ 授業の挨拶や校内での挨拶を自主的積極的におこなう。教員からのあいさつや声かけにより、生徒が自発的に挨拶する雰囲気づくりに努める。 | 生徒課 | 「成果指標」 指導の結果、積極的に丁寧な挨拶ができる生徒の割合を増やす。 | 生徒アンケートの「あなたは校舎内で自発的に挨拶をしていますか」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 87.7% B | ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は87.7%であった。 ・朝の登校指導や授業中の礼節指導、部活動における指導の各場面で引き続き挨拶の励行に取り組む。また、「M-PRIDE」(スローガン)により心の成長も促すように努める。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | 本校の特色は学力向上と活発な部活動のバランスであり、部活動をもう少し活性化してほしい。これに探究活動が加わることで魅力が向上すると思う。 | | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 | 部活動等を取り巻く環境は、大きく変化しており、従来までの教員の意識や感覚に支えられた仕組みでは活性化は厳しい。今後は、生徒のニーズに応じた部活動のあり方を模索する方向で活性化していくことが必要である。 | | | | | |

令和4年度 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校

(No.3)

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 分析（成果と課題） | |
|--|-------|---|--------------|---|---|-----------------|--|
| <p>(3) 地域に根ざした活動や学校情報の発信を進めるとともに、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。</p> | ① | いじめ防止基本方針に基づき、全職員の共通理解の下、いじめの未然防止や対応に取り組んでいる。 | 生徒課 | 「努力指標」 いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている教員の割合が増加する。 | 教員アンケートの「いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 100.0% A | <ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した教員は100%であった。 ・教員が異常を見逃さないように常に高い意識を持ち続け、即時に情報の共有と対応を行うこととする。 |
| | ② | 地域でのボランティア活動を各学期に1回以上計画し、学校教育に対する地域の理解を得る。 | 総務課 生徒課 | 「努力指標」 ボランティア活動に参加する生徒の割合を増やし、地域社会の一員であるという意識を高める。 | ボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満 | 51.1% C | <ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「複数回参加した」「一回参加した」と回答した生徒は51.1%であった。 ・昨年同期比で大幅にダウンした。身近な活動の取組がボランティアの入り口に該当するという意識を促し、特別な活動という意識を変えるよう努める。 |
| | ③ | ホームページで本校の特色や教育活動の様子をタイムリーに発信するとともに、情報の速やかな更新とわかりやすいページ構成に努める。また、メール配信では必要な情報を遅延なく提供する。 | 総務課 企画情報課 | 「満足度指標」 学校の様々な情報発信に対して満足する保護者が増加する。 | 学校の情報発信に対して、適切であると答えた保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | 79.5% C | <ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の保護者アンケートにおいて「適切である」と回答した保護者が79.5%であった。 ・保護者や地域のニーズに合った情報の提供に努めている。引き続き迅速な発信に努める。 |
| | ④ | 教材の共有や各種会議の縮減、業務の平準化等の取組を通して、生徒と向き合う時間を十分に確保する。 | 教頭 | 「満足度指標」 限られた時間の中で、教材研究の時間や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直す教職員が増加し、毎月の時間外勤務時間が80時間を超える教員が減少する。 | 教員アンケートの「教材研究の時間や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直すことができたと感じる」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた教職員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 | 76.6% B | <ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した教員は76.6%であった。 ・生徒や保護者の満足度を高める工夫を図りながら、教員が各々のワークライフバランスの改善を進められるよう学校運営の見直しを継続する。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | 広報活動に注力して学校の特色や活躍の様子をもっと情報発信すべきである。 | | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 | | 広報活動の重要性は十分認識しているので、WEBページの充実も含めて取組を強化したい。 | | | | | |